

# NPO かねやま電雪 設立趣旨書

## 1. 趣旨

山間僻地の過疎化は全国的現象ですが、特に東北地方の豪雪地帯は顕著であり、点在する主を失った民家はその象徴です。私たちは、この民家を雪室に改修し、冬季の豪雪を取り入れ、雪を滑落させる太陽光パネルを設置し、雪冷熱と太陽光エネルギーを利用することにより、中山間地域の振興や環境の保全に資すると考えました。本事業には、改修や太陽光パネルなどの初期設備、雪室管理などの費用が発生しますが、得られる収入は僅かです。土地家屋所有者や地元住民の運用や資金面の協力が必要であり、管理運営の社会的責任も発生します。それらを果たすために「NPO 法人 かねやま電雪」を立ち上げました。

## 2. 経過

発端は、昔仕事で故郷を後にした団塊世代の 2017 年夏のふとした会話です。金山町有屋 の最も奥にある無人となった旧自宅を何とかできないか?でした。「タダ .. でケル .. といっても 誰もイラネ ... 」と。「イラネ ... 」の理由は、山奥の不便さと豪雪です。過疎化は時代の流れとは言え、金山育ちの団塊世代にとって雪は辛くても日常であり、吹雪の中を中学校まで通った体験は勲章のようなものです。家を守る「そがき」は晩秋の 習わしであり、それぞれが生まれ育った家も、豪雪に耐えてきた歴史を背負っています。当初、住宅を解体して高架の太陽光発電設置なども考えましたが、歴史を消し去ることにわだかまりがありました。そこで家屋を改修して雪室として再利用し、同時に太陽光発電を設置できないか検討しました。厄介な雪を逆利用し、昭和の思い出も残しながら自然 エネルギーを生かした未来志向の建物に変える発想です。

計画の骨子は、

- 1) 雪に耐えられる太陽光パネルを設置する。
- 2) 1 階部分を断熱材で内装して雪室とする。
- 3) 2 階部分は、昭和団塊世代のメモリアル空間とする。

雪室については、山大工学部横山孝男名誉教授の指導を仰ぎながら、2018 年 4 月～7 月に 8 m<sup>3</sup>小型雪室の実証実験を行い、約 100 m<sup>3</sup>の母屋雪室が実用になる予測も立てることができました。金山中学 1963 年卒の同級生 3 名が呼びかけ人となって準備を進めました。

当 NPO 法人 は、これらの施設を借り受けて、その運用にあたります。

2018 年 6 月 24 日 第 1 回 呼びかけ人会議

2018 年 7 月 22 日 第 2 回 呼びかけ人会議

2018 年 8 月 4 日 発起人会

2018 年 8 月 18 日 設立総会